

アジアの若者に 留学の扉を開く

2008年から始まった日本人材開発センター(通称:日本センター)が主催する「日本留学フェア」。日本への留学に強い関心を持つ現地の学生と本邦教育機関の「架け橋」となるべく開始された同フェアでは、年々参加者が増加し、今年度は過去最高の約5,000人が各国会場を訪れた。また、通算8回の開催を通して、参加者は延べ2万6,000人に上る。日本の外国人留学生の受け入れが伸び悩む中、独自のネットワークを生かし発展を続ける本フェアに海外はもとより国内でも注目が集まっている。



モンゴルでの各大学のプレゼンを真剣に聞く参加者

双方から高い期待

留学フェアの主催者である日本センターは、市場経済移行国においてビジネス人材の育成、および日本との多様な交流の拠点となるべく、国際協力機構(JICA)支援の下、2000年より順次設置されてきた。現在は9カ国に10センターが存在する。そのうち、2015年度は5カ国(カンボジア・ラオス・モンゴル・カザフスタン・キルギス)で留学フェアが実施された。同フェアは大学間交流促進の一環として08年から毎年実施されてきたが、これまで延べ49の教育機関が日本より参加した。また、

延べ来場者数も2万6,000人近くに上り、今後もさらに活況を呈すると予想されている。

留学フェアの特長の一つとして、多彩な機関からの協力が挙げられる。JICAはもとより現地日本大使館や日本学生支援機構(JASSO)、企業などの団体が後援する“オールジャパン”の支援を得つつ、各センターが主体的に実施している。また、15年度は5カ国合計で現地の若者5,000人近くを集めたが、東南アジア諸国連合(ASEAN)ほか、経済成長が期待される日本センター設置国において、日本への留学に対する熱意が高いことも大きな推進力となっているようだ。

ス」も寄与しているようだ。

フェアの中心となるのは、全体説明会での各大学の留学プログラムに関するプレゼンテーション、そして、各大学がブースを設けて行う個別相談会となる。加えて現地の教育環境や日本語学習者の現状を知ってもらうため、日本の大学の担当者が現地の教育関連省庁や教育機関を訪問できるようにアレンジするというサービスをフェア前後に実施している。“日本センターならでは”のネットワークを駆使し、相手国の政府や教育機関の信頼や協力を得て、民間のフェアとは異なるサービスを提供しているのだ。参加教育機関からの評価も非常に高いという。



モンゴルにおける個別相談ブースの様子

そして何より、日本から参加する教育機関が増えたことこそ、同フェアが成長してきた最大の理由だ。彼らが参加する理由には、「日本センター独自のサービ

モンゴルに顕著な伸び

こうした取り組みが功を奏し、15年度の留学フェアでは、特にモンゴルが参加大学14校(対前年比155%)、参加者数1,500人(対前年比134%)と顕著な伸びを見せた。その背景には、モンゴル人の勤勉さに加え、日本

語を話せる優秀な人材が多いことがあると考えられる

モンゴルの留学フェアは、5カ国の先陣を切って、10月10日に2日間の日程で始まった。今回は在モンゴル日本大使館とJASSOが主催する「日本留学説明会」を同時に行う形をとり、その間に、参加した14大学のプレゼンテーションを7大学ずつ2回に分けて行った（2日目は大学の順番を逆にした）。これは、話を聞く側がなるべく飽きないように配慮したためである。別室では、各大学やJASSOなどがそれぞれブースを設けて、来場者の個別相談に応じた。また、フェアの1カ月前から日本センターのFacebookに各大学のリンクや動画を掲載したり、各大学の概要をモンゴル語に訳して紹介したりと、事前の案内発信にも力を入れたという。

来場者は高校生、大学生をはじめ、家族連れや生徒を引率してきた先生まで多岐にわたった。参加大学からの印象も良く、アンケートでは「やりたいこと、興味のある分野が明確で、意欲の高い人が多いようだ」「事前にモンゴルの高校などを訪問できたのは良い機会だった」「（日本センターが行った）モンゴル語の翻訳や、フェア当日の通訳が優秀で助かった」という声が多く寄せられた。

個人相談ブースも盛況

なお、モンゴルでは個人相談

ブースも2日間にわたり多くの若者たちでにぎわった。多い大学では200人近くを集めたという。来場した若者が興味を持つ分野は、理工系から医学、社会学、経営学など多岐にわたり、留学を希望する学生たちは「英語だけで学位を取れるコースがあるか」「出願資格はどうなっ

ているか」「奨学金の手続きはどうすればいいか」など熱心に質問し、情報収集に励んでいた。

留学生の獲得や大学間交流という点で、アジア各国や大学が日本センターに寄せる期待は大きい。日本センターは、今後も日本留学に関する効果的な情報発信を行っていく考えだ。

「参加大学の声」Voice

名古屋大学は、以前から留学フェアに積極的に参加しており、モンゴルへの参加は2014年度に次いで2度目となる。その狙いと今後の展望は。



名古屋大学 教育推進部 入試課 国際入試係員
浅井 揚子氏(左)

名古屋大学 国際教育交流本部 国際教育交流センター 留学生受入部門 特任教授
リンリー マシュー氏(右)

モンゴルとは、これまでさまざまな学問領域において、盛んに交流を行ってきました。本学では現在、モンゴルから32人の留学生を受け入れています。彼らは比較的日本語能力が高く、学習意欲にあふれており、優秀な成績を修めています。

留学フェアでは、日本に興味のある学生にたくさん来ていただきました。留学後は日本で働きたいと、卒業後のキャリアも視野に入れている学生が多かったのが印象的でした。本学では2014年に赤崎勇特別教授と天野浩教授がノーベル物理学賞を受賞しましたが、物理系に興味のある学生は少なかったため、今後、理工系に興味のある学生がさらに増えることを願っております。

名古屋大学とモンゴルは以前から親密な関係を築いています。例えば、名古屋大学附属高校は新モンゴル高校と定期的に相互交流を行っています。2014年にはアジアサテライトキャンパス学院を併設する形で名古屋大学モンゴル事務所を開設しました。これによってモンゴルでの事業がより円滑に促進されることが期待されます。

今回は、留学フェアの前後の時間を生かして高校訪問を行い、貴重な意見交換・情報提供をすることができました。これらの活動を通して、日本への留学が少しでも現実味を帯びたのであれば幸いです。本学では今後とも、この縁を大切に積極的に交流を図っていきたく思っております。

	モンゴル	ラオス	カザフスタン	カンボジア	キルギス
実施日	10月10日(土) 10月11日(日)	10月27日(火)	10月29日(木) 10月31日(土)	10月30日(金) 10月31日(土)	11月3日(火) 11月4日(水)
開催場所	モンゴル日本センター	ラオス国立大学	カザフ経済大学 (アルマトイ) ユーラシア国立大学 (アスタナ)	カンボジア日本センター	キルギス国立総合大学 ビシュケク人文大学
来場者数	1,500人	1,200人	270人	1,300人	650人
参加大学名	青山学院大学、岩手大学、大阪大学、慶應義塾大学、高知大学、国際大学、芝浦工業大学、事業創造大学院大学、中央大学、東海大学、名古屋大学、北海道大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学	大阪大学、九州大学、国際大学、長崎大学、名古屋大学、横浜国立大学、立命館アジア太平洋大学、琉球大学	大阪大学、国際大学、筑波大学、立命館アジア太平洋大学	九州大学、京都大学、国際大学、東京大学、長崎大学、名古屋大学、法政大学、横浜国立大学、立命館アジア太平洋大学	大阪教育大学、国際大学、筑波大学、日本学術振興会、立命館アジア太平洋大学

<お問い合わせ> 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 産業開発・公共政策部民間セクターグループ 日本センター事務局
Tel:03-5226-6698 Email:japancenter@jica.go.jp
URL:http://japancenter.jica.go.jp